

4)ウミガメ類の繁殖、健康管理の研究・技術開発 ウミガメ類の持続的飼育に向けた飼育下繁殖技術や、長期飼育や緊急保護に対応する健康管理技術の向上を図る。また、地域や関係機関と連携し野生個体の保全に向けた調査を展開する。 ①精液保存や人工授精等の新規繁殖技術開発 ②適正孵卵及び孵化率向上に関する技術開発 ③緊急保護や野生復帰に対応した健康管理技術開発 ④沖縄島のウミガメ保全のため、国際自然保護連合(IUCN)や日本ウミガメ協議会等の専門委員等として協力 ⑤市民ボランティアと連携した産卵及び漂着状況モニタリング ⑥標識放流や衛生タグ、遺伝的手法等による生態調査 ⑦幼体飼育等によるヘッドスターティング調査	○	①アカウミガメ、アオウミガメおよびタイマイの累代繁殖成功。精液保存液を開発。 ②タイマイ親個体にセレンを投与することでふ化率の向上を図り、卵黄形成にともなう濃度の顕著な減少と孵化率の向上を確認。適正孵卵温度の調査については高知大学と共同研究を継続。 ③緊急保護10件に対応。過去に保護した個体を含め12個体を野生復帰。 ④職員がIUCNのウミガメ専門部会員やウミガメ協議会理事等に委嘱され、ウミガメ類の保全活動を引き続き対応している。 ⑤地元ボランティアや行政機関と連携した産卵および漂着調査を実施し、本部半島および名護市東海岸を中心にアカウミガメ47回、アオウミガメ28回の産卵を確認した。また、地域住民の情報による死体漂着8件に随時対応した。 ⑥東北大等と共同で遺伝的手法による生態調査を実施した。また野生復帰個体等21個体の標識放流を実施した。 ⑦若い個体の回遊経路を推定するため、ふ化後約1年以上育成した127個体に標識を装着し、ウミガメ放流の体験プログラム等において放流した。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 学術成果など結果は申し分ない。栄養学的なテーマのような統一されたテーマを見つけるのも良いだろう。新たな研究テーマを模索するには、飼育されたウミガメや砂浜での調査など博物学的な研究を強化する必要がある。それには職員がその職務にあたるほか、ある程度学識をもったボランティアを育て、組織することが重要となる。
5)サンゴ類等無脊椎動物の生態調査、飼育展示の技術開発 飼育サンゴ類の持続的な展示に関連する調査や繁殖技術向上を図るとともに、野生個体群の保護保全に関する調査を行う。 ①飼育サンゴの成育や成熟等に関する調査研究 ②ウミサバテン類の水槽内行動に関する研究 ③サンゴ類の野外における造成技術の開発 ④海洋博公園地先のサンゴ礁保全に向けた生息状況のモニタリング調査 ⑤新規展示種の展示に向けた飼育技術開発 ⑥ミドリイシ類の昼夜逆転産卵等、生態を反映した展示技術の開発 ⑦サンゴ類の飼育下で繁殖した幼生等を活用した野外復帰調査 ⑧節足動物の飼育下繁殖、親子の同時展示	○	①飼育サンゴの状態を日々注視しつつ、適切な管理を継続している。 ②ユウレイボヤの槽内観察から飼育環境や適切な餌料の検討を実施中。 ③水族館で繁殖させたウスエダミドリイシ幼生36万個体を放流し、野外での人口基質への定着実験を実施。 ④例年に引き続き調査を実施中。本年度は台風による若干の被度低下が確認された。 ⑤複数のヤギ類の展示を開始。野外個体の輸送実験も実施。 ⑥ミドリイシの昼夜逆転産卵を実施し、生体展示も行った。 ⑦野外での人口基質への定着実験を実施。③と重複。 ⑧ オカヤドカリ、モクズシヨイ、ナキエンコウガニの飼育下繁殖に成功。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 サンゴに関するモニタリングは息の長い仕事なので、その評価を毎年するのは難しい。新たな展開として、幼生の着底条件などの新たな観点の研究の必要性を感じるもちろんモニタリングは続けていく必要があるし、この仕事は大いに評価する。

海洋生物の環境保全と地域振興に係る調査研究・技術開発					
1)海洋生物相調査及び自然史資料の収集 水生生物相の把握、標本等の自然史資料を収集することにより、自然史研究による学術振興、標本収集、普及啓発活動を展開し、博物館的な役割を担う事業を展開する。 ①標本等の自然史資料収集 ②沖縄周辺海域の生物相調査及び環境DNA等の技術開発 ③標本の同定、新種、日本新記録種の記載 ④他の研究機関や水族館からの標本同定依頼、標本貸出依頼への対応 ⑤標本等の学術資料の適切な管理 ⑥研究成果の教育普及事業への活用 ⑦国内外の研究機関への情報提供	○	①約80点の標本を追加。 ②全国観測網プロジェクトへの継続協力。受動的ろ過手法の開発に着手。 ③国内外の研究機関と連携し、スズメダイ科、ハナダイ科、イトヨリダイ属などの複数の日本初記録種に関する分類学的研究を継続(日本初記録1種を報告)。 ④標本貸し出し17件、標本を引用した学術論文2報。 ⑤引き続き適切にメンテナンスを行った。また、元研究顧問から自然史関連書籍約4000冊の寄贈を受けた。 ⑥水族館イベント、県立博物館イベント、地元小学校にて講師対応。 ⑦千葉県立中央博物館、兵庫県立大学、東北大学、近畿大学、衛生環境研究所、鹿児島大学、琉球大学、水産研究・教育機構開発調査センター、神奈川県立生命の星・地球博物館、北九州市立博物館などの共同研究を実施。	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・⑤の寄贈書籍の中には、現在では入手困難な貴重な書籍も多く含まれているため、閲覧体制の充実や電子化等の対応等について検討している。 【外部評価委員コメント】 吉野哲夫元顧問の寄贈文献の中には今では入手困難な貴重な文献も多く含まれている可能性があり、今後の慎重な管理を希望する。
2)在来希少種の保全に関する調査研究 在来希少種の生態や現況を把握し、保全に寄与する技術開発を行う。 ①海洋博公園内の希少種調査、外来種対策調査 ②在来種の生息域外保全に資する繁殖学的調査、技術開発 ③環境省認定希少種保全動植物園等制度を活用したイボイモリ等の国内希少野生動物種やワシントン条約(CITES)掲載種等における保全繁殖学的調査 ④ヒョウモンドジョウ等の在来希少動物種の生息状況の把握 ⑤緊急保護や繁殖技術向上及び生息域外保全活動の実施	○	①ヤシガニ、クロイトカゲモドキの野生個体群の調査を実施。 ②希少淡水魚タウナギの飼育下繁殖実験を開始。ヤエヤマハラブチガエルおよびアイフィンガーガエルの飼育下繁殖に成功。 ③オキナワイボイモリの繁殖は試行中。現在のところ産卵に至らず。クロイトカゲモドキは3年連続繁殖成功。 ④ヒョウモンドジョウの継代繁殖に成功。人工授精および仔稚魚育成にも成功し、生息域外保全における継代飼育の技術を確立。環境DNAを用いたヒョウモンドジョウ検出系を開発。イヘヤトカゲモドキおよび、希少トカゲ類4種の生息状況調査を実施。 ⑤リュウキュウヤマガメの緊急保護受け入れ。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ヒョウモンドジョウの人工繁殖に必要な本質的な環境条件の解明は重要である。また、クロイトカゲモドキも今後のさらなる成果に期待したい。その他、沖縄には希少な淡水魚が未記載種も含め多く生息すると思われる。それらの研究に着手するのは好ましい。また、カタツムリについても今後の研究に期待したい。

3)ザトウクジラ調査等鯨類の生態調査と地元産業との連携調査 冬期に來遊するザトウクジラの生態を把握し、資源管理に資する情報収集や地元観光業(ホエールウォッチング)に寄与する。 ①個体識別調査(30年以上継続)や回遊調査等の長期モニタリングによる資源状態の把握や予測 ②鯨類相を把握するため、漂着個体や混獲個体の調査や標本の収集 ③ウォッチング事業等が鯨類に与える影響調査 ④混獲鯨類の放流及び衛星タグを用いた追跡による行動調査 ⑤水中マイクを用いた鯨類の音響モニタリング調査 ⑥地元観光業者(ウォッチング事業等)への情報提供や情報収集 ⑦海外の研究機関と連携した生態調査の実施 ⑧ドローン等の最新技術を用いた成育状況調査の実施	○		①昨年度までの取得データの解析の結果、野生個体数の順調な増加傾向を確認。 ②4件の死体漂着に対応し、組織片などをサンプリングした。 ③国際基準に沿った調査を展開し、現在データ解析中。 ④計6個体に衛星タグを装着し行動データを取得した。詳細は解析中。 昨年度までのデータについて、哺乳類学会で成果報告した。 ⑤昨年度までのデータについては現在論文執筆中。本年度の調査を実施し、現在データ解析中。 ⑥環境省主催のシンポジウムの各種調整。ホエールウォッチング業者とのルール策定に向けた各種協議を実施。 ⑦環太平洋域の各国とのデータ共有および共同研究を実施。ハワイ大学とは飼育鯨類を用いた共同研究を開始。 ⑧カリフォルニア州立大学と共同でドローンによる体長測定、行動解析調査を実施。計10群分のデータを収集。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 この地域での大小鯨類の研究、大学やNGOと共同のザトウクジラ調査、地元連携の取り組みを高く評価する。
4)水産業振興に関わる調査研究、技術開発 地域の漁業者等と連携し、展示生物の取得技術の向上、水産資源の新規開拓や養殖技術開発等により地域の産業振興へ寄与する。 ①展示生物の水産種苗としての導入技術の向上 ②水産資源の新規開拓や養殖技術開発 ③収集困難種の人工授精、孵化による展示への試み ④財団の特許技術等を活用し、自治体や関連機関との連携による水産業振興への貢献 ⑤地元の漁協との連携や協定による新規展示生物の情報収集	○		①②沖縄県栽培漁業センターと連携し、展示水槽で得られたスマ卵を用いた養殖種苗育成に成功。さらに来年度以降の大量生産に向けた技術的課題も抽出。 ③アカマンボウの人工授精に向けて資材準備や作業計画を策定。また、海上生實で育成しているグルクマを用いて人工授精に関する訓練を開始。 ④魚類捕獲装置を活用したパラオ共和国のカツオ漁振興への寄与。モルディブでの実証試験に向けて各種調整中。 ⑤定置網漁業との連携を継続。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 水族館で回収した卵を用いた養殖技術の確立に向けて、まずはスマを卵から稚魚までの育成に成功した点は評価できる。アカマンボウの人工授精と育成技術の研究には目立った進展が見られなかったが、着実に進めてほしい。

5)海洋文化及び漁労文化など海と人との関わりについての調査研究と資料の収集 沖縄の海洋文化や漁労文化の調査を実施し、沖縄の人々と海洋生物や自然事象との関わりについて検証する。 ①ハーリー（船漕ぎ儀礼）や漁労習俗、催事における儀礼的漁労等の海洋文化に関する調査 ②海洋生物にまつわる習俗等、文化的調査 ③造船、操船等、船にまつわる伝統技術の調査研究 ④各調査データ、収集資料を活用した、公園内外での講演会、シンポジウム、企画展等の実施 ⑤漁具等の有形資料の収集 ⑥各調査データ、収集資料のデータベース化 ⑦地域教育委員会、各種研究機関との共同調査、研究等を通じた協力、協働 ⑧地域の文化継承に資する調査成果の地域への還元、協働		○	①②⑦⑧以下の調査を実施し、写真・映像の撮影と聞き取り調査を行った。 ・6/3～4:多良間島のスツブナカ(祭事)の供物用の漁労 ・6/21:糸満市および南城市のユッカヌヒー(祭事)のハーリー(競漕儀礼) ・8/12:名護市嘉陽の綱引き(祭事) ・9/24:名護市汀間のタカラモノ(祭事)の来訪神儀礼 ・9/25～26:久高島の八月マティ(祭事)の供物用の漁労 ・10/7:本部町伊豆味の豊年祭(祭事)の来訪神儀礼(操り獅子) ②④8/13に企画運営課、動物研究室と共同で専門講習「人と自然 -クジラ・イルカと人のくらし-」を実施したほか、12/24～1/28には海洋文化館において久高島・多良間島の催事の漁労に関する企画展を開催し、広く市民へ還元した。 ④海洋文化館を会場とする4回の「海洋文化講座」に加え、沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)を会場とする「出張・海洋文化講座」を4回、実施し、それぞれテキストおよびスライドを製作した。 ③⑤令和2年度に建造した奥武島のサバニを引き続き海洋文化館で展示した。また、海洋文化館屋外展示のサバニ3隻の劣化状態を調査し、防虫処理を施して海洋文化館屋外収蔵庫に移動し、保存環境を改善した。加えて大宜味村、東村、本部町、南城市、糸満市においてサバニの造船・操船技術者を訪問し、サバニの建造および活用状況を記録した。 ⑤⑥海洋文化館館内収蔵室を整理し、寄贈資料等の調査を行ってリスト化し、管理・保存体制を整えた。 ⑥海洋文化館において館内・収蔵庫内の温湿度データを集積・分析し、夜間の外気導入の停止実験ならびに冷風導入実験を行い、展示資料の適切な保存のための環境改善方法の策定に着手した。6～9月に資料の状態調査を行い、状態写真を撮影して資料リストに反映した。また、7/11には一部資料(深鉢)に発生したカビについて調査し、より適切な展示手法について検討して、令和6年度には専用の展示ケースを製作して外気から遮断する方法を導入すべく、調整を開始した。 ⑥⑧調査結果については適宜、取りまとめを行い、講演用テキストの作成や海洋文化館での一般向け講座(海洋文化講座)に活用した。調査時に撮影した写真、映像データを各地域の漁協、青年会、公民館に提供した。 ⑦沖縄の祭事の一環として行われる漁撈に関する調査を多良間島および久高島で実施した。成果は、12月以降に海洋文化館における企画展に反映した。 ⑥⑦⑧令和4年度に引き続き糸満市教育委員会からの委嘱を受けて文化財保護審議委員に就任し、漁具一式の文化財指定に向けた資料リストの監修作業を行った。3月には同教育委員会によるサバニ建造技術の文化財化に関する検討会にも参加した。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
--	--	---	---	---------------------------	------------------------------	---------------------

国内及び国外の水族館・研究機関との情報交換、共同研究、資料収集						
調査研究事業の推進に際し、国内外の研究機関とMOU(覚書)や包括連携協定を積極的に締結し、研究体制の連携を強化しつつ効果的に事業を展開する。	○		・来年度早々にジョージア水族館とのMOU締結に向けた準備を行った。従前締結のものを含め、国内外の多数の研究機関と連携を継続。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 本項目に関するコメントは特になかった。
調査研究活動で得られた情報は、学会や学術論文等にて発表するほか、本施設の展示に反映させるとともに、大学等他の機関での講座や、一般向けの講演会、収益施設における冊子や学習グッズの販売等を通して積極的に普及啓発を行う。特に、自然環境保全に資する研究成果については、報道機関等へ向けたプレス発表を行い、成果を広く公表し保全への関心を高めるよう努める。また、本施設や研究所のホームページにて各活動の最新情報を発信する。	○		・嘉陽区、安部区、天仁屋区において実施したウミガメ産卵調査結果を、美ら島自然学校内において掲示し、一般見学者および関係区民への報告を行った。 ・年度末に成果をまとめた年報を総合研究所のHPに掲載した。 ・36編の論文が掲載・受理。HPにて研究成果を掲載およびニュースリリースを計21件行った。さらに42件の一般向け講演および学会発表を実施した。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・各研究課題の内容および達成状況は十分な水準にある。 ・飼育スタッフが第一著者の英文の論文が複数出ている点は、研究室の活動の波及効果という面で好ましい傾向である。

(7)普及啓発

	内容	令和4年度実績	事業計画	令和5年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
教室	【インタビュー学習】 県内外の学校や教育関連団体からの質疑応答に対応する。	24件265名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	18件148名	75%	-	・引き続き、全国の学校からの利用増に向けて、周知等の対応を図る必要がある。
	【バックヤード見学】 水族館の裏側を見学し、飼育員の作業現場や水族館の設備について学ぶ。	41件666名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	77件1,137名	188%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【講師派遣】 水族館の役割や飼育員のお仕事、生き物について講話する。	18件2,200名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	27件1,361名	150%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【オンライン講座(有料)】 スライドや標本等を使い、生き物の生態等についてオンラインで職員から学ぶ。	18件1,343名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	12件655名	67%	-	・実際の来場機会が増加したこと等により、オンライン講座の参加者数が減少していると考えられる。
	【生きもの観察プログラム】 生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	10件563名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。 福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。	19件1,425名	190%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【遠隔授業】 全国の病院・特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	70件1,691名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	74件1,464名	106%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【触察プログラム】 県内外の視覚特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い生き物の生態について学ぶ。	4件33名	視覚障害者への教育プログラムの開発及び実施	5件48名	125%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【移動水族館】 地域のお祭り等に生き物を積んだ活魚車で訪問し、水族館のPRや海洋生物の知識普及啓発を実施する。 (7,8,1,2月のみ)	2件3,001名	水族館のPRや海洋生物の知識普及啓発を実施	11件15,804名	550%	-	・コロナ禍で中止されていた相手先施設でのイベント開催等が再開され、利用者数が増加傾向にある。
	【ふれあい水族館】 水族館への来館が困難な方々(病院・福祉施設・離島等)を対象に、生き物を積んだ活魚車で訪問する。 (7,8,1,2月を除く)	2件981名	福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。	6件507名	300%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【職場体験】 県内の小学高学年(ジョブシャドウ)、中・高校生に対し、飼育員のお仕事体験を通して、働くことに対しての関心や職域を広げる。	14件57名	職場体験及び学校行事等の教育普及に対する協力及び指導。	14件49名	100%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。

	【飼育実習】 県内外の大学または専門学校において、水産または動物系を専攻している学生を受け入れ、飼育展示・解説業務等の実習を通し、実践的教育活動を提供する。	32件32名	飼育実習及び博物館実習の実施。	41件41名	128%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【紙芝居読み聞かせ】 保育園や幼稚園を対象に、園内外で海の生き物を題材としたオリジナル紙芝居の読み聞かせやぬり絵を実施する。	18件625名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	6件282名	33%	-	・コロナ禍を過ぎて屋外での活動が活発になったことで減少傾向がみられる。利用増に向けて、周知等の対応を図る。
	【映像貸出】 県内外の病院を対象に、展示生物の映像を貸し出し、癒し効果を与える。	5件	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	13件	260%	-	・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【ウミガメ放流会】 環境教育の一環としてウミガメの放流を実施し、来場者の環境保全に対する意識向上を図る。	6件68人	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	4件56人	67%	-	・海況などの実施条件を満たす日程確保が困難だったため、開催日を減じて実施した。今後も実施回数は状況に応じて調整する。
	【ウミガメから学ぶ環境学習】 小中学校および教育委員会等と連携し、ウミガメとウミガメを取り巻く環境に関わる学習を実施し、環境保全意識の向上を図る。	44回1,231名(計3件)	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	3件184名 ※カウントの仕方が回数(R4)から件数(R5)に変更したため、人数の比較はできない。	100%	-	・地域教育委員会・学校との連携事業として、実施している。引き続き取り組みを進める必要がある。
イベント	【持込イベントの受入れ】 第三者が主催する持ち込みの行催事等については、必要な調整を行い受け入れる。	①沖縄県産コーヒー販売イベント ・来店数 約2,500組 ②海と日本プロジェクト ・参加数:2,195名 ③Keep Ore Oceans Amazing活動 ・参加数:4,100名	Be,OkinawaFreeWi-Fiを活用したスタンプラリーを実施し、観光客の周遊性・集客性を促進する。 実施期間: R5.11.17～ R5.12.31	参加者:2,055名	-	-	・良好に実施できている。 ・デジタルコンテンツを用いた新たな試みであったが、観光客の集客につながった取り組みであった。
	【美ら海ゆうもどろコンサート】 GW期間中の多客時における混雑緩和、利用促進、利用者満足度の向上を目的に、美ら海プラザ横芝生地にて夕陽をバックにコンサートを実施する。	①R4.5/1(5/3はアーティストの都合で中止) ②R4.5/1、5/3～5/5	【質の高い快適なサービスの取り組み】 混雑緩和の為に夕方への誘客を図ったコンサートを実施した。	5/3(水)～ 5/5(日) ①17:15 ②18:00 演奏会場の観覧者数:489名	-	-	・良好に実施できている。 ・コロナ禍を過ぎて利用者数が増加傾向にあるので、利用者の混雑緩和や満足度の向上につながったと考えられる。

【オンラインイベント(aini)】 コロナ禍で来館が困難となった全国の子どもたちに、より質の高い学びの場を提供する。 また、沖縄美ら海水族館の研究や保全活動を紹介し、今後の活動への理解の促進を図る。	開催数:54回 参加数:1,204組	【来場困難者へのプログラムの開発と実施】 コロナ禍に即した非接触型の事業を推進し、オンラインイベント(aini)などの事業展開を図る。	開催数:3回 参加数:42組	6%	-	・実際の来場機会が増加したこと等により、オンラインイベントの開催回数を見直しを行った。
【MICE等の受入れ】 営業時間外に黒潮の海大水槽前等をMICE等の会場として提供し、利用促進及び満足度向上を図る。	開催数:16回 参加数:799名	MICEの受入れやウェディング事業を実施することで、水族館の利用促進及び魅力向上に努める。	開催数: 14回(MICE) 16回(ウェディング) 参加数:641名(MICE) 146名(ウェディング)	188%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。

(8) 飲食・売店営業

1) 飲食施設等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
飲食・売店営業等						
海洋博公園の便益施設として、全ての利用者が安全・安心かつ快適に利用できるよう、飲食施設、物販施設、自動販売機及びコインロッカー、記念写真の撮影販売、オンラインショップ等の管理運営を行う。 また、販売価格は周辺の市場価格並みの料金に設定し、すべての飲食・物販店舗において、クレジットカード、電子マネー、モバイル決済等のキャッシュレスサービスを提供し利用者の利便性を高める。	○		・海洋博公園の便益施設として、全ての利用者が安全・安心かつ快適に利用できるよう飲食施設、物販施設、自動販売機及びコインロッカー、記念写真の撮影販売、オンラインショップ等の管理運営を行った。 ・販売価格は周辺の市場価格並みに設定し、すべての飲食・物販店舗において、クレジットカード、電子マネー、モバイル決済等のキャッシュレスサービスを提供し利用者の利便性を高めた。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
飲食施設						
店舗の特性やロケーション、季節、利用者層、ニーズに応じ、地域特産品や沖縄の食材を活かした沖縄らしいメニューを中心に、料理・デザート・ドリンク等を提供する。 また、食のバリアフリーとして、メニューの多言語表記、写真によるビジュアル化、主な原材料のピクトグラム表示等を行い、ベジタリアン・ハラール・食物アレルギーに係る情報を提供する。	○		・カフェオーシャンブルー(黒潮の海大水槽前)、レストランイノー(東シナ海を一望)、オキちゃんバーラー(オキちゃん劇場前)の店舗特性やロケーション等に応じて、地域特産品や沖縄の食材を活かした沖縄らしいメニューを中心に、料理・デザート・ドリンク等を提供した。また、食のバリアフリーとして、メニューの多言語表記、写真によるビジュアル化、原材料のピクトグラム表示を行い、ベジタリアン・ハラール・食物アレルギーに係る情報提供を行った。 ・9/25に、カフェオーシャンブルーで提供したメニューにより、お客様がアレルギー症状を発症する事故が発生した。再発防止のため、11月16日、11月17日に全料飲店舗スタッフを対象に衛生管理の専門機関による教育を実施した。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・おおむね計画書通りに実施されているが、アレルギー事故の発生を受けて計画書の運用面に課題があったと考えられる。	・アレルギー事故の発生要因は、商品欠品時の対応フローが作成されておらず、現場スタッフのみで対応を決定したことが考えられるため、欠品時の対応や現場スタッフと事務所職員の連絡体制を整理した。今後同様の事案を発生させないためにも、指定管理者において以下の再発防止策を整理し、スタッフ等に周知徹底する。 ①食物アレルギーに関する教育の充実、②対応手順書等の作成、③報告・連絡・相談の徹底、④店舗スタッフの適正な人員配置、⑤情報共有の迅速化 ・アレルギー事故を受け、令和6年度から衛生管理専門業者による食品衛生教育を年3回実施することとした。 ・県は指定管理者による再発防止策の取組状況を適宜確認する。

1)営業日・営業時間 ・カフェオーシャンブルー 通常期:8:30～18:00 繁忙期:8:30～19:30 水族館の営業時間に連動して設定。 ・レストランイノー 通常期:9:00～17:30 繁忙期:9:00～19:00 水族館の営業時間に連動して設定。 ・オキちゃんパーラー 通常期:10:00～17:30 繁忙期:10:00～18:30 水族館の営業時間に連動して設定。 ※原則、本施設の営業日・営業時間に連動して設定する。ただし、利用者の状況に応じて、県と調整し必要な手続きを行う。	○	水族館の営業時間に連動し、下記のとおり、営業を実施した。 ・カフェオーシャンブルー 通常期(4/1～4/28、5/8～7/14、9/1～3/31):8:30～18:00 繁忙期(4/29～5/7、7/15～7/31):8:30～19:30 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31):8:30～20:30 ・レストランイノー 通常期(4/1～4/28、5/8～7/14、9/1～3/31):9:00～17:30 繁忙期(4/29～5/7、7/15～7/31):9:00～19:00 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31):9:00～19:00 ・オキちゃんパーラー 通常期(4/1～4/28、5/8～7/14、9/1～3/31):10:00～17:30 繁忙期(4/29～5/7、7/15～7/31):10:00～17:30 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31):10:00～17:30 ※オキちゃんパーラーの営業時間は、海獣施設及びウミガメ施設の営業時間とあわせて変更しなかった。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)運営内容 ①カフェオーシャンブルー 沖縄らしい軽食メニュー、デザート、ドリンク等を提供する。また、人気の高い水槽側客席は時間制指定席(有料)として設定し運用する。 ②レストランイノー 地域特産品や沖縄の食材を活かしたランチビュッフェ、アラカルトメニューを提供する。また、ランチビュッフェの時間帯は、客席の一部を団体(海外含む)予約席として設定し運用する。 ③オキちゃんパーラー 沖縄らしい軽食メニュー、デザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供する。 ④美ら海プラザ内飲食施設(モーレマーレ)及びキッチンカー 沖縄らしい軽食メニュー、デザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供する。	○	①カフェオーシャンブルー ・沖縄らしい軽食メニュー(美ら海カレー、うちなー焼きそば等)やデザート、ドリンク等を提供した。また、人気の高い水槽側客席は、多くの利用者が利用できるよう時間制指定席(500円/40分)として設定し運用した。 ②レストランイノー ・地元本部町のブランド豚肉「本部町産あぐ〜」や本部町産食材(野菜等)を活かしたランチビュッフェ、アラカルトメニューを提供した。また、ランチビュッフェの時間帯は、繁忙期を除き、一部の客席に限り事前予約を受付し運用した。 ③オキちゃんパーラー ・沖縄らしい軽食メニュー(スパムおにぎり、黒糖いなり等)やデザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供した。 ④美ら海プラザ内飲食施設(モーレマーレ)及びキッチンカー ・モーレマーレでは、沖縄らしい軽食メニュー(ちんあなごソーセージ、ツナボール等)やデザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供した。 ・美ら海プラザ前芝生広場にキッチンカーを2台(7/10～9/27、10/3～3/31は1台増設・計3台)設置し、沖縄らしい軽食メニュー(タコライス、チキン等)やデザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供した。 ・ゴールデンウィーク期間(4/29～5/7)は、増加する利用者に対応するため、美ら海プラザ前芝生広場にキッチンカー3台と休憩エリアを臨時的に増設し、飲食物を提供した。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・地産地消メニューの開発において、関係する業者とは日頃から協力関係を築き、互いに意見交換しながら開発に取り組んでいる。 ・カフェオーシャンブルーで導入を進めているQRコードでのオーダー等の状況を検証し、よりお客様の満足度が高い店舗運営に努める必要がある。